

孤独で退屈な通勤電車を楽しむ共体験サービス

“Theater in train” の開発

近藤孝哉[†] 岡崎博樹[‡] 上林憲行[†]

東京工科大学 メディア学部[†] 手仕事工房[‡]

1. はじめに

筆者は毎日の通学電車で退屈しのぎのためにスマートフォンを使用している。周りを見渡すと、乗客の多くはスマートフォンを使用している。電車内での利用を想定したスマートフォンサービスを調査した結果、乗換案内アプリや駅構内情報検索アプリなど利便性重視のものが多かった。本研究では、電車の車両を劇場に見立て、偶然同じ車両に居合わせた人々を繋ぎ、共体験を楽しむサービス Theater in train(以下 TiT)の開発を行った。

2. サービスデザイン

2.1 サービスコンセプト

TiT のコンセプトは以下の 2 点である。

(1) 電車(車両)を劇場に見立てる

TiT は乗車中の車両を劇場に見立てている。この劇場には同じ車両に乗り合わせた乗客だけが入場でき、仮想的な空間の中で共体験を楽しむことができる。実際の劇場のように複数の演目を用意している。事前に演目の盛り上がりや知人の参加状況を知ることができ、その日の気分に合わせて好きな演目に参加することができる。

(2) 偶然同じ車両に乗り合わせた乗客との一期一会の共体験

毎朝同じ時間の電車に乗っていても同じ車両に乗り合わせる乗客は毎日異なる。偶然同じ車両に乗り合わせた乗客と参加型のサービスを利用することで乗客同士の相互作用により、思いもよらない一期一会の共体験を楽しむことができる。

2.2 カスタマージャーニーマップ

TiT が提供するユーザー体験価値(UX)をカスタマージャーニーマップにまとめたものが図 1 である。ペルソナが利用している CLUB in train(以下 CiT)とは TiT 内に用意された演目の 1 つで、車両をクラブに見立て、同じ車両(劇場)の乗客(観客)と音楽を楽しむサービスである。

各フェーズの代表的な UX を紹介する。

(1) 乗車：盛り上がりを確認し、期待を膨らませる

駅のホームでユーザー(乗客)は乗車予定の電車の車両(劇場)ごとの盛り上がりを知ることができる。盛り上がっている車両(劇場)に乗車(入場)することで、より多くの乗客(観客)と TiT を楽しむこ



図 1 Theater in train (TiT) サービスのカスタマージャーニーマップ

“Theater in train” service making train to be a fun place as a theater with Co-experience

Takaya KONDO[†], Noriyuki KAMIBAYASHI[†], Hiroki OKAZAKI[‡]

[†]School of Media Science, Tokyo University of Technology [‡]Teshigoto Lab.

とができると期待を膨らませることができる。

(2) 車内：乗客同士の相互関係に基づく共同体験

TiT は同じ車両の乗客を繋ぐサービスなので、今まで電車内では味わうことができなかった乗客同士の共同体験を楽しむことができる。毎日電車に乗っていても乗り合わせる乗客は毎日異なるので、一期一会の共同体験を楽しむことができる。

(3) 下車：体験の発信や保存

劇場での一期一会の体験を下車後に SNS で発信できる。また、体験した内容は保存され、いつでも再生することができる。

3. プロトタイプデザイン

TiT は共通部と演目部の 2 つで構成される。

3.1 サービス共通部

共通部には以下の 4 つの機能を備えている。

(1) プロフィール設定機能

ユーザーのプロフィールを設定する機能である。ここで設定したプロフィール情報をもとに演目の内容が構成される。

(2) チェックインチェックアウト機能

電車に乗ると自動でチェックインする機能である。車両ごとに劇場を分ける機能もここに含まれている。プロトタイプでは Beacon を利用し、これらの機能を実装した。

(3) 演目を選択機能

複数ある演目から参加する演目を選べる。演目選択画面では、演目ごとに現在の参加者数や盛り上がりを確認できる。また、今まで一度でも同じ劇場に居合わせたことのあるユーザー(観客)と同じ

車両(劇場)にいる場合は、その観客が何の演目に参加しているか知ることができる。

(4) SNS との連携

TiT で体験した一期一会の内容を SNS で発信することができる。

3.2 演目部の例：CLUB in train

TiT 内の演目の 1 つである CiT の実装を行った。CiT とは車両をクラブに見立て、同じ車両(劇場)の乗客(観客)と一期一会の音楽を楽しむサービスである。CiT の主な特徴は以下の 2 点である。

(1) 一期一会の選曲

CiT で再生される楽曲は CiT に組み込まれた DJ が選曲を行う。DJ は劇場の観客のプロフィール情報、季節や地域の情報を混ぜ合わせ選曲する。そのため、「同じ場所で同じ時間に同じ車両に乗車した」という乗客同士の関係から、一期一会の楽曲を楽しむことができる。

(2) 盛り上がりの可視化

画面には同じ劇場の観客のアバターが表示され、同じ車両の乗客とクラブにいる様子を表現している。自分のアバターをタップすることで自分のアバターが踊り出し、盛り上がり表現できる。画面の背景は楽曲のジャンルによって変化しクラブでの照明演出を表している。

4. おわりに

電車内で偶然同じ車両に乗り合わせた乗客との共同体験サービス Theater in train の開発を行った。実際に Beacon を用いたチェックイン処理、TiT 内の演目の 1 つ CLUB in train を実装した。

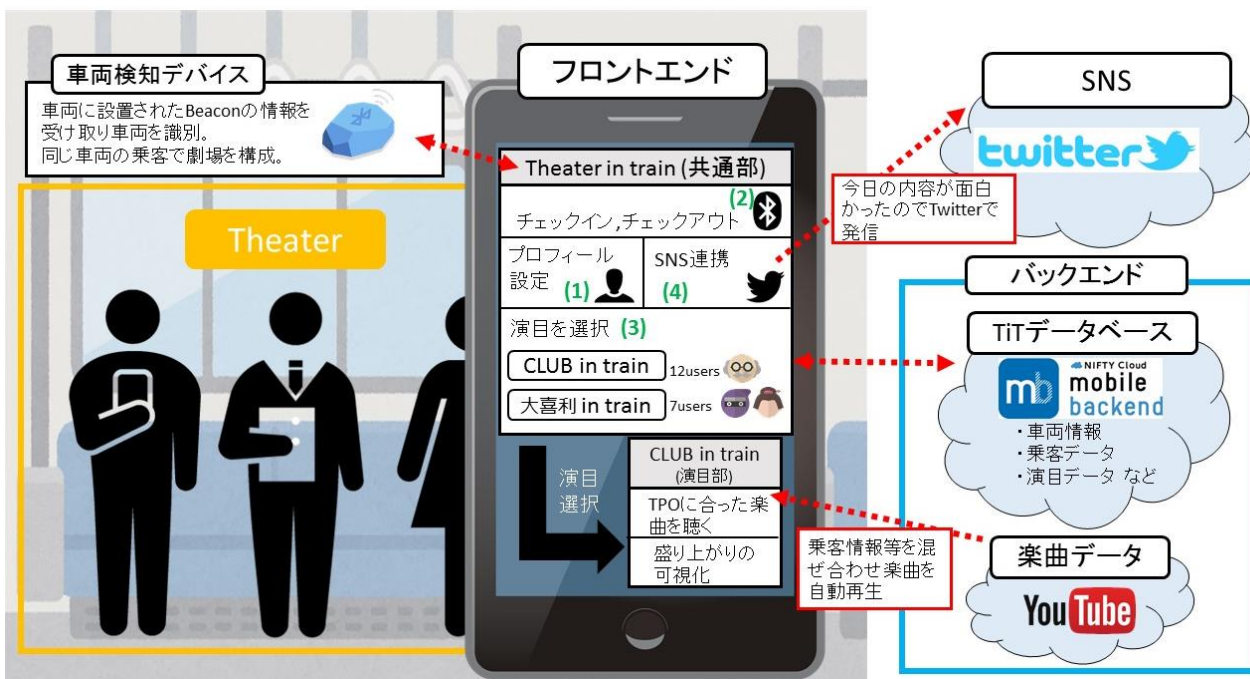


図 2 Theater in train サービスの構成図